



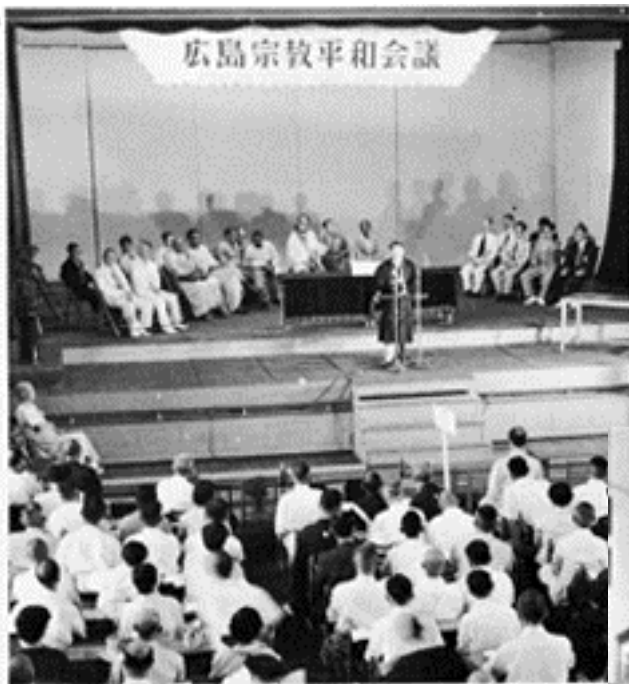
# 「ここを一つに平和を宣べ伝えよう」

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会 常任委員会

## < 目次 >

<b>1. お知らせ</b>		<b>4. 「献堂50周年を迎える祈り」</b>	
平和を祈る集会祭儀(予定)	.....2	今月の祈り	.....7
第3回平和学習会の開催			
世界平和記念聖堂スケッチ及び平和の歌表彰式		<b>5. 部会だより</b>	
		<総務部会>	.....8
<b>2. 聖堂建設の歴史シリーズ</b>		<霊性・典礼部会>	
パイプオルガンにまつわるエピソード	.....3	<平和活動部会>	
ステンドグラスにまつわるエピソード	.....5	<記念誌部会>	
<b>3. ラッサール神父の思い出</b>			
秋川神瞑窟建設資金募集趣意書	.....6		

「神よ、あなたのみ旨を行います。」



<写真左> 広島宗教平和会議の開催。

1955年8月5日 ザベリオホールで仏教、回教、キリスト教、ヒンズー教、神道などが参加して原水爆禁止を訴えた。

被爆50年写真集「ヒロシマの記録」(中国新聞社)



(写真右) ザベリエルホール全景

(1949年9月 竣工 ゴーセンス神父によって音楽学校の講堂として建設。記念聖堂が竣工するまでは仮聖堂として使用された。) 司教館所蔵

## お知らせ

### 平和を祈る集会祭儀(予定)

霊性・典礼部会では、世界平和記念聖堂の献堂50周年を閉幕するに当たって、「平和を祈る集会祭儀」を12月18日(土)の午後に予定しています。

献堂直後には、聖体礼拝フランシスコ修道会のシスターが常住礼拝のために来広され、地下聖堂で原爆犠牲者のために祈りを捧げていました。

また、平和の実現のために「神に従い、一人ひとりが新しい人になりなさい。」とラッサール神父は、聖堂建設を通して訴えられ、自ら座禅による「祈り」を探求されました。4月に行われた「ラッサール神父と共に働いた人々の話を聞く会」においても、祈りの必要性が語られています。しかし、日常生活に追われ、複雑で厳しい社会状況の中で、どの様に祈りを深めればよいのでしょうか。ローマの聖ペトロ大聖堂もパリのノートルダム大聖堂も、そして世界平和記念聖堂もその美において、また芸術においていかに優れているとしても、これは物質に過ぎず、絶えず摩滅と破壊に曝されています。私たちが築こうとする建物は、永遠に存在する不滅の聖堂です。「あなたたちが神の聖所であり、神の霊は、その中に住みたまおう。」というパウロの言葉(コリント、3-16)を世界平和記念聖堂で静かに黙想しましょう。

詳細は、後日、各小教区にお知らせします。



(地下聖堂で祈りを捧げるシスター) 司教館蔵

### 第3回平和学習会の開催

「アジアの友と手をつなぐ広島市民の会」(ANT-Hiroshima)の渡部朋子さんを迎えて「世界の中のヒロシマ」と題する講演会を行います。これは、献堂50周年を記念して平和活動部会の行事として開かれるものです。講師の渡部さんは、「アジアの友と手をつなぐ広島市民の会」の代表で、弁護士である夫の法律事務所を事務局長として切り盛りしながら、まちづくりや国際交流、平和構築などの市民活動に携わっておられます。現在、アンナプルナ脳神経センター医療協力会副会長、(財)広島平和文化センター評議員、(財)広島市ひと・まちネットワーク評議員、(財)ひろしまドナーバンク評議員、比治山大学非常勤講師などされています。なお、当日は、「NPO手話センターひろしま」の協力で手話通訳も予定されています。多くの方々の参加を待っています。

と き：11月7日(日)

午前10時30分～12時30分

ところ：世界平和記念聖堂

(カトリック幟町教会) 広島市中区幟町4-42

問合わせ：カトリック広島司教区

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会

平和活動部会まで(電話082-221-6017)

### 世界平和記念聖堂スケッチ等の表彰式

世界平和記念聖堂のスケッチ及び平和の歌表彰式とスケッチの展示を下記のとおり行います。

と き：12月19日(日)

(午前9時30分からの三末司教の主日ミサの中で表彰し、応募スケッチを聖堂で展示します。)

ところ：世界平和記念聖堂

(カトリック幟町教会) 広島市中区幟町4-42

問合わせ：カトリック広島司教区

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会

平和活動部会まで(電話082-221-6017)

### 献堂ニュース原稿募集

献堂ニュースは、来月号で終了します。「平和を実現する決意」など原稿を募集します。編集者まで。

## < 聖堂建設の歴史シリーズ >

献堂された世界平和記念聖堂には、ラッサール神父の祖国ドイツをはじめ世界各地からいろいろな備品が寄贈されている。この中から、いくつかの寄贈品にまつわるエピソードを「広島宣教再開100周年記念誌草稿」から紹介する。

### パイプオルガン

寄贈者：ケルン市（ドイツ）

製作者：アウグストクライス・パイプオルガン  
製造所（ボン市）



（当時のパイプオルガン。1972年の改修によりパイプの形態や配置が異なっている。風呂井氏提供）

当時（1954年）、日本において、このような本格的なパイプオルガンが備え付けられた施設は、世界平和記念聖堂だけであった。

1952年10月、荻原教区長は、ケルン市で仲介役のポール・ケラーヴェセル医師に連れられて、ケルン市長シェヴェーリング博士に会った。この会談の中で荻原教区長は、市長に「現在、広島において建築中の世界平和記念聖堂のために、ケルン市がパイプオルガンを献贈することが可能か否かご協議願いたい。」と打診された。

ケルン市長は、世界平和記念聖堂建設の意義と構想を聞き、平和思想の振興及び原子戦争の地上から

の追放に役立つことを願って、ケルン市で焼け残ったたった一つのパイプオルガンを改修してでも寄贈したい旨を市総務委員会に申し出た。同委員会は、市議会に世界平和記念聖堂に対して鍵盤2段、音栓18を有するパイプオルガンを献贈することを提案し、市議会は全員の賛成によってそれを決議した。当時クライス製造所のオルガン見積価格は二万七千マルク（約300万円）であったという。

この時のケルン市議会におけるシェヴェーリング市長の演説は、次のようであった。

「ご承知の通り広島は、1945年原子爆弾によって全く破壊されてしまいました。しかし、市の復興計画によって、聖堂は建築されています。この聖堂に於ては、人類が将来の悲惨な戦災から守られるように、全世界の平和のため、日夜、絶えず祈らなければならないのであります。つまりこの聖堂は、あたかも永遠の平和の祈りの場として建設すべきものであります。

日本の50人の著名人からなる後援会は、必要な建設費を集めました。ローマ教皇もまたこの偉大な事業の成功の為、切にご奨励されています。全世界よりの寄附によって建てられる聖堂は、最早その完成の域に近づきつつあります。しかしながら、種々の設備の中で適当なオルガンがなお不足しております。（中略）

総務委員会は、戦争によって苦しめられている他国の人々の不幸に対しても、また特別の理解を有するものであるとの意見でありました。それと同時に又、広島における世界平和記念聖堂に対する援助を通じて、原子戦争追放の決議を人類に宣言したいとの特別の意図もまた総務委員会にあったということでもあります。

従って、総務委員会は、この平和事業の実現に際して、オルガンの為に必要な費用を献納し、市議会が広島市民に対し援助を与えられますよう、オルガン購入の為、総額二万七千マルクの予算を可決されることを提議いたす次第であります。」

さて、この経緯に関して、西ドイツの有力新聞に次のような記事が掲載された。西ドイツ国民の日本に寄せる厚意、ならびに平和への強い希望をうかがい知ることが出来る。

「ケルン市長シュヴェーリング博士は、パイプオルガン献贈に関して、ケルン市民を代表して浜井広島市長に対し、平和を守るため共に闘う決意を披瀝して親書を寄せられ、また浜井広島市長からもケルン市長の御厚意に感謝する意味の親書を返した。」



(工場で組立検査されるパイプオルガン。風呂井氏提供)

### ケルン市長から広島市への手紙

前略 日本で、また全アジアの都市の中で広島は最も厳しい苦難を経験したのであります。

我々は寸志に過ぎませんが衷心からの献納によって、我々の援助の気持を表明致したいと存じます。同時にまた、この事により、自己の非常に厳しい苦難こそ、正しく兄弟姉妹 - 我々はこの地上の全ての人々をそう思っているのですが - の苦難を理解し、慰めるものであり、その援助を一層進めるものであるという考えをも現したいと存じます。

我々はこの献贈が、東亜の苦しみに悩む兄弟姉妹にとって宗教的強化ともなり、また、それをもって真の幸せに役立つことを乞い願うものであります。

されば、閣下がこの世界平和記念聖堂に於ける礼拝に際し、しばしば我がケルン市及びその市民をも、閣下の御祈祷の中に、御含み下さいますならば共に感謝の至りと存ずる次第であります。私は、閣下を始め、閣下の市及び国家に於けると同様に、ケルン市の各市民も悉く、平和への憧憬を心中に抱いて居りますことを敢えて断言申し上げます。私も原子戦

争排斥につまましては、閣下と同じ意見を有して居る次第でございます。

閣下に、特別なる敬意を表わして

1951年2月1日

ケルン市長 シュヴェーリング

### 浜井広島市長から ケルン市長への手紙

拝啓 目下、本市に建設中の平和記念聖堂に対し貴市よりパイプオルガンを寄附下さる由承り、私は広島市民を代表し、貴下並に貴市議会議員及全貴市民に対して深甚なる謝意を捧げます。

貴市民の本市に寄せられた此の深い同情と暖かい友情を思うとき、私は又、1950年7月に私がMRA (Moral Re-Armament) の一行と共に貴市を訪れたとき我々に寄せられた皆様の御歓待を思い起します。

当時、ヨーロッパに於ける、最も古い歴史的な都市である貴市が、あの恐るべき戦争によって、甚だしく傷つけられて居ることを知って、哀惜の情を禁じ得ませんでした。併し反面、ドイツ国民が国家再建のために力強く起き上がって居られる姿に接して深い感銘を受けました。我々は必ず再起しなければなりません。復讐のためにではなく、平和世界実現のために。

私は、御寄贈を受けたオルガンが永久に貴市民と本市民の間の友情のシンボルとなり、そこから朝夕流れ出るメロディーが、本市民の心を慰め、ますます平和思想作製に寄与することであろうことを確信致します。

終りに貴市の一層の御発展を御祈りして御礼の言葉と致します。

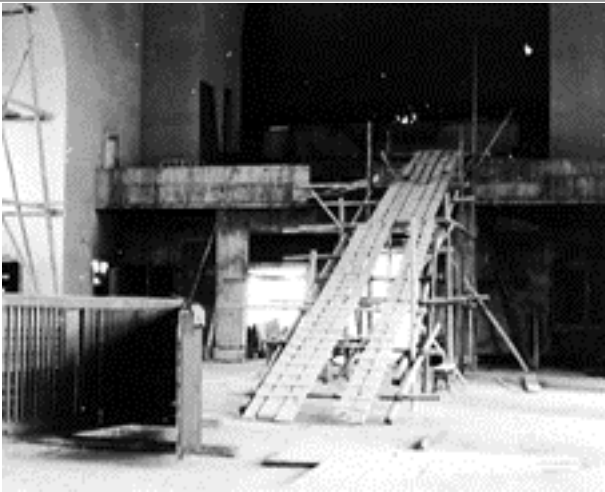
1952年5月

広島市長 浜井信三



(パイプオルガンの鍵盤にある銘板)





(パイプオルガンの部品を搬入する足場。風呂井氏提供)

### ステンドグラス(内陣下段)

寄贈者：オーストリア・ドイツ・ポルトガル・  
メキシコ その他各聖母巡礼地

設計者：ベンドリング博士(Wendling)

製作者：ハインデーリック・グラス工場(西ドイツ)



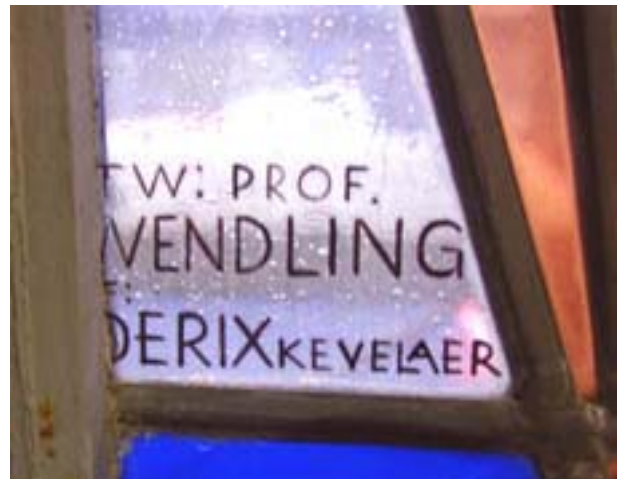
(喜びの奥義：奉献(左) 神殿の主(右) 石橋洪一氏撮影)

世界平和記念聖堂の内陣の窓に取付けられるステンドグラス(ロザリオの祈りの15玄義)は、大小取りまぜて約65枚、その総面積は約250㎡で、1952年2月下旬に西ドイツより色調見本としてそれぞれ異った三種類の現品が送られて来た。さすがに世界最高水準を誇るドイツ化学工業の製品だけに、聖堂の建設関係者から驚異と歓喜の声が上がった。直ちに関係者で協議し、サッシ設計図を西ドイツの製作工場に送付した。目下、西ドイツのケーベラー市ハインデーリック・グラス工場で作成中であるが9月上旬には着荷の予定である。

色調は橙色、深紅、青、黒、薄茶等を鉛の組子でつなぎ合はせたもので、中には人物の聖面を写したものもある。

同ステンドグラスは、西ドイツ・アーヘン市大学教授ベンドリング博士の設計になるもので、その価格は邦価に換算して約1千5百万円に相当する。

これは西ドイツ各都市の各種団体、会社又は個人がそれぞれ適当に寄附を申出られて製作されたもので、中でも聖画を写した高級品の価格は1㎡約5万円といわれている。(中略) 当時、全体の窓にステンドグラスを配置した日本の建造物としては、最初のものである。( 価格の根拠は不明。 )



(作者と製作工場の名前が残されている。)

### その他のステンドグラス

本祭壇背面のステンドグラス

寄贈者：ミュンヘン市 聖ルドビコ布教会

祭壇左右のローズ・ウインドウ

寄贈者：アーヘン市

フランシスコ・ザビエル・フェライン

内陣上段のステンドグラス

寄贈者：オーストリア(ラーブ総理大臣)



(高窓のステンドグラス設置のための足場) 斉藤秘書撮影

## < ラッサール神父の思い出 >

ラッサール神父は、「キリスト教的な禅」に取り組むため、1961年広島市近郊の南原峡に神冥窟を建てた。この広島の神冥窟は、ダムの建設に伴い、閉鎖することになったが、その後、1969年には、東京都五日市市郊外の秋川溪谷に神冥窟を再建した。

その再建に当たり愛宮真備氏後援会(代表世話人、山田節夫・前広島市長、河村郷四氏・広島テレビ社長)が組織され、募金活動が行われた。そのときに配布されたパンフレットに載せられたラッサール神父の挨拶をここに紹介する。ラッサール神父なき今でも、秋川の神冥窟で「キリスト教的な禅」による祈りが続けられている。



(広島市郊外の南原峡にあった神冥窟) 斉藤秘書撮影

### 秋川神冥窟建設資金募集趣意書

「原子時代の人」ともいわれている現代人は、近代の科学と技術の進歩によってできた一方的物質的な文化のために、今や、最高の危機に直面しています。あらゆる進歩にもかかわらず、社会の墮落と思想の混乱、絶えまない戦争、常日ごろのいろいろな争いごと、そして将来に対する不安のために、現代の多くの人々は、神経的に弱り、精神異常の状態に陥りやすくなっています。

他方、現代人は、一方的物質的な文化の進歩を中止させることもかなわず、それどころか、この物質的な文化の進歩が、人間のとおとい使命の一つであるがゆえに、かえって、その発展に努力しなければならないのです。こうした跛行的な進歩をたどることによって、人類はやむをえず、遂には滅亡へと走らなければならないのでしょうか。

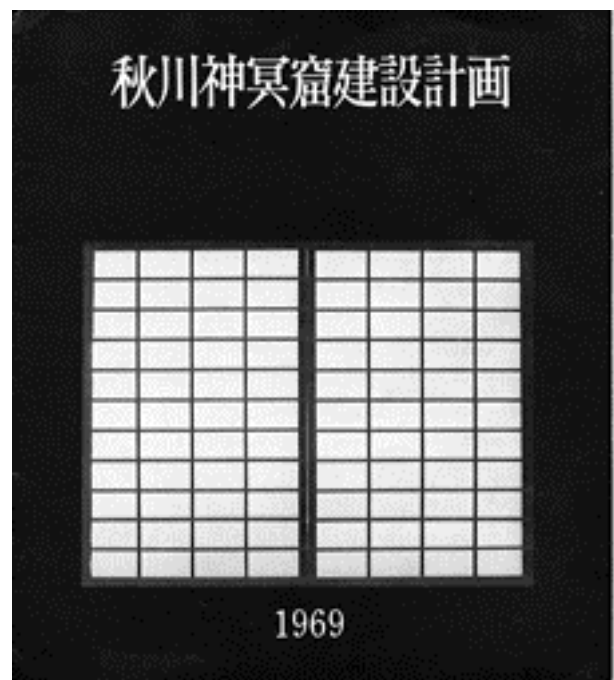
このジレンマから救われるために、いかなる社会

制度を考えてみても、おそらく役にたたないでしょう。それには、人間そのものを革新する、いいかえれば“新しい人間を造らねばならない”のです。即ち、現代があらゆる物質的な進歩をすればするほど、ますます幸福になれる人間でなければ救われないのです。現代の多くの人は、頭だけが重く、足もとがおぼつかなく、しっかりと地につかずに、ふらふらしています。人間が自分自身、その本質、その根拠にたちもどって、そこに強く根をおろさないと、この原子時代につぶされるでしょう。

さて、人間が自己へもどるこの道は、瞑想以外にないでしょう。洋の東西を問わず、この道が昔から知られています。現代の人間は、あまりにもこの道を見捨てすぎていますから、困難に対して、案外もろいのです。

仏教の坐禅も、キリスト教の瞑想も、このような道です。これらの道が、人間を本来の自己へもどし、その自己の根源である絶対的な存在にまで進んで、そこにおいて永久的に落ち着き、もはや乱れない平安と喜びが得られるのです。

この道を教えることが、今度の施設の目的です。したがって、場所は大自然の中のものなるべく静かな所を選びました。また修養を目的とするのなら、宗派を問わず、だれでも参加できます。修行の方法あるいは瞑想として、原則的にいかなる正しい種類の方



(後援会パンフレット)

法も除きませんが、主に坐禅を使う予定です。坐禅の心得には、キリスト教神秘と多くの共通点がありますからキリスト教信者も、これを使うことが有益に違いありません。最近カトリックでは、他宗教の多くの特長の中から、共通する場をさがし求め、これを是認しようとしています。

以上の趣旨で、都心から離れて、静かに自己を見つめる瞑想(坐禅)の場をさがしておりましたところ、皆さまの暖かいご援助により、このたび東京都西多摩郡檜原村小岩の付近で、好適の地を得ることができました。

施設の設計は、村野森建築事務所にお願ひし、施工は大谷建設工業に依頼し、去る5月29日(1969年)には地鎮祭を無事すませました。

このように計画は実現してゆきますが、これにかかる土地と施設建設の費用は、別項(略)のように、およそ5,200万円かかります。現在、趣旨にご賛同いただいて、国外から3,600万円の募金がありました。このたび残る1,600万円の資金の募集も、後援会が組織されて、募金計画が進められる運びとなりましたことは、まことに感謝にたえない次第です。皆さまのご協力を心から願ひ申し上げます。

1969年(昭和44年)7月1日



(秋川神瞑窟でミサを捧げるラッサール神父)

ルーメル神父後援会スライドより

## 世界平和記念聖堂献堂50周年 を迎える祈り

### 【今月の祈り】

#### 11月の意向

#### 「すべての人々が一つにならんために」

(バウリア市から寄贈された聖体拝領台の銘文)

世界平和記念聖堂の大祭壇の最下段にこの聖体拝領台があります。これは、1956年に西ドイツのバウリア市からこの聖堂に贈られたものです。

当時は、聖体拝領の方法が現在とは異なり、この拝領台の前にひざまずいて、司祭からご聖体をいただいでいました。

聖体拝領台には、ローソクのモザイクが施されています。このローソクの光は、ご聖体をとおして神との一致に導くためのものでしょうか。「私たちはただ一切れのパンをみる。まことの信仰の行為・・・目に見えることに反して信じること。ユーカリスタにおける信仰の行為・・・『実にひどい話だ。誰がこんな話を聞いていられようか。』(ヨハネ6・60)

いいえ、主よ、このユーカリスタの秘義を信じるのは、ひどいことではなく、それはむしろ、無限の喜びのもとです。『主よ、私たちは誰のところに行きましょうか。あなたは永遠のいのちのことばを持っておられます。』(ヨハネ6・68) 信じます。」

(参照: ペドロ・アルペ著「キリストのこころ」p.89)



(聖体拝領台)



(聖書の言葉)

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたがわたしをお遣わしになったこと、また、わたしを愛しておられたように、彼らをも愛しておられたことを、世が知るようになります。

(ヨハネ17・21-23)

(黙想)

(祈り)

聖なる父よ、わたしたちは、主イエスがどれほど深くわたしたちが一つになることを望まれたかを、まだ十分に理解できていません。それでも主は、今日も、争いや分裂、憎しみや差別にみちたこの世界を歩むわたしたちの旅路の糧となり、平和と一致のしるしとしてこの世界に遣わしてください。主が、受難に向かわれる前に祈られたこの祈りを、わたしたちの心に深く刻んでください。

わたしたちが、いつも、ともし火をともし、目覚めた心で、主を迎え、主のお望みを理解することができますように。また、すべての人々が一つになるようにと、熱い想いをかけられた人々につながっていくことができるために、人を愛する心を与えてください。主よ、わたしたちが、主の心を心とし、まことの一致のために、喜んで働くことのできる平和の道具にしてください。

わたしたちの主、キリストによって アーメン

「今月の祈り」は、援助修道会が担当しました。



(聖体拝領台にあるローソクのみosaic)

部会報告

<総務部会>

10月16日に常任委員会を開催。各部会の活動報告のほか、献堂50周年の閉幕について話し合った。

<霊性・典礼部会>

10月2日に第10回部会を開催。献堂50周年を終わるに当たって、来年以降につながる「祈りの会」を行うことを検討することとした。また、収集した資料について、整理と公開方法が課題であることなどを話し合った。

<平和活動部会>

10月23日に応募のあった世界平和記念聖堂のスケッチの第1次審査を行った。

<記念誌部会>

10月23日に部会を開催。集まった写真等の確認他、記念誌の構成フレームに沿って、テーマごとに分担して写真の割り付けを行った。

献堂50周年ニュース

vol.01 11月号(No.10)

2004.11.01 発行

(編集・発行)

カトリック広島司教区

世界平和記念聖堂献堂50周年実行委員会

常任委員会

〒730-0016 広島市中区鞆町4番42号

Tel 082-221-6017

ホムンヂ <http://www.hiroshima.catholic.jp/>